

杉浦明平展

平成26年10月15日(水)～11月9日(日)

杉浦明平は、大正2年に愛知県渥美郡福江町(現在の田原市折立町)に生まれました。旧制一高時代に「アララギ」に入会し、歌人の土屋文明に師事したことから広がったその文学活動は、短歌論、文学評論、作家論、記録文学、歴史小説、ルネッサンス文学の研究、イタリヤ童話の翻訳など多岐にわたります。戦後は故郷の渥美を拠点に執筆を続けました。

また、町会議員として地域の行政と深く関わり、社会の問題にも幅広く行動を起こしました。その体験をもとに書かれた作品『ノリソダ騒動記』で、ルポルタージュ作家として注目されるようになり、映画化された『台風十三号始末記』をはじめ数々の作品を発表します。

1971年に『小説渡辺華山』で毎日出版文化賞受賞、1977年には中日文化賞を受賞、そして約50年の歳月を経て完成させた『ミケランジェロの手紙』では、1995年に日本翻訳家協会翻訳特別功労賞を受賞しています。

晩年は、渥美の風景や趣味など身近なことを題材にした作品を多く残し、平成13年に87歳で生涯を終えました。

今回は、杉浦明平ゆかりの資料を展示するとともに、幅広い活動からみえる、人間杉浦明平について紹介します。



トークイベント 「家族からみた明平さん」

文学の取り組みや社会問題への行動など、杉浦明平の人間像と作品について、家族の視点から長女の岩田ミナさんにお話いただくとともに、作家の三田村博史氏による、作品からみた明平像をそれぞれのエピソードを交えてお話いただきます。

出演 / 岩田ミナ(杉浦明平長女)

三田村博史(中部ペンクラブ会長)

日時 / 平成26年10月26日(日)

13時30分～15時

会場 / 文化のみち二葉館 1階 大広間

※入場無料但し要入館料

席は当日先着順



主催・お問い合わせ

文化のみち二葉館

【名古屋市旧川上貞奴邸】

名古屋市東区榎木町3-23
TEL & FAX 052-936-3836
<http://www.futabakan.jp/>

※このチラシは、古紙パルプを含む再生紙を使用しています。

「ドニチエコきっぷ」「一日乗車券」

を利用してご来館の方は入館料割引! 一般200円→160円



交通のご案内

- なごや観光ルートバス「文化のみち二葉館」下車
- 市バス「飯田町」下車、北に徒歩2分
- 基幹バス2号「白壁」下車、南に徒歩5分
- 地下鉄桜通線「高岳」下車、2番出口より北に徒歩10分
- 名鉄瀬戸線「尼ヶ坂」下車、南に徒歩12分

※駐車台数に限りがありますので、できるだけ公共交通機関をご利用ください。

